

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2771000557
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホームさくらんぼ中島
所在地	〒555-0041 大阪市西淀川区中島1-14-21 (電話) 06-6476-4700

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価確定日	平成20年6月11日

【情報提供票より】(平成20年4月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 16 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	20.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 26日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	9 名		
要介護5	4 名	要支援2			
年齢	平均 87.5 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名取病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人博悠会が運営するこのグループホームは、毎日医師の往診があり、対応も24時間可能で安心な医療連携がとられています。毎年度法人の理念を基に介護目標が定められ、今年度は「一人ひとりが大切だからくとも生きる」を掲げ、利用者・家族・地域・職員が協力して、利用者が自分らしく生活出来るようにネットワーク作りに取り組み、職員は一丸となって目標の実践に努めています。町会と協賛した夏祭りの開催やバザーを通してホームに地域の方が多く来られ、ホームからの積極的な声掛けもあり、地域の行事や小学校との交流を図っています。また、利用者が今までの趣味を継続出来るような支援もされており、ボランティアの方による手芸や書道、陶芸等も楽しみにつながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けてカンファレンスの定例化や毎月のモニタリングの実施がされています。また記録用紙を変更することで水分摂取量や服薬管理などが記録しやすく、また入居者の日々の様子もわかりやすくなるような工夫がなされています。さらにもう一歩進んでの改善も検討されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配布し、勉強会やミーティングで検討してフロアリーダーによりユニット毎にまとめられています。自己評価票は各フロアに設置し職員がいつでも読めるようにしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、町会長、婦人部長、地域包括が参加する運営推進会議が2ヶ月に一度開催されています。ホームの活動報告をはじめ、地域からの情報を得たり、ホームの評価を受けたり、助言や要望を得る機会としています。町会や地域包括との連携も図れ、有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際や電話で聞いたり、また家族会や運営推進会議でも意見の収集が図られています。意見や要望等は、職員会議で話し合われ、改善策が検討されて家族会や運営推進会議で報告がされています。各階に意見・苦情箱を設置し意見が出やすいような工夫もされています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し、回覧板を利用し、ホームの行事案内を回覧してもらったり、町会に夏祭りを協賛して頂いたり、ホームでバザーを開催し多くの地域の方がホームに来られています。また、婦人部主催のふれあい喫茶に利用者が参加したり、小学校から集いの案内があったり、地域の夏祭り、盆踊りにも参加し地域交流が深められています。また、ホームに併設の空室を利用してサロンを作り、地域と入居者の交流や子どもの見守り隊への協力等が検討されており、さらに開けたホームを目指しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、毎年度の介護目標が決められています。昨年度はフロアごとに定め実践されてきましたが、その土台の上に立って、管理者が熱い思いを形にしました。今年度は「一人ひとりが大切だからくとも生きる」が掲げられ、利用者・家族・地域・職員が協力して、利用者が自分らしく生活出来るようにネットワーク作りに取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や介護目標が常に念頭にあるようにと朝礼時に唱和し、カンファレンスやフロアミーティングの際には理念に立ち戻り、ケアの実践に繋げています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に3つの施設があり、また独居老人も多く、自治会長はこの問題に力を入れておられるということで、協力協同の関係がなされています。老人会の将棋の会や町会のお花見、また婦人部のふれあい喫茶や小学校の行事参加、作品展に入居者の作品を出展するなど積極的な地域交流がなされています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題については出来る事から職員で話し合い改善に向けて取り組まれています。自己評価票への取り組みについては全職員に配布し、ユニット毎にリーダーがまとめて作成されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、家族、町会長、女性部長、地域包括が参加する運営推進会議が開催されています。会議では、ホームの活動報告をはじめ、参加者から市としての取り組みの話や、地域の情報を得たり、災害時の避難についての話し合いやボランティアの紹介、活発な意見交換もあり有意義な場となっています。		

グループホームさくらんぼ中島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所には電話で相談をしているが、市との関わりは法人を通じて行われています。今後、区内のグループホームとの連携が出来るようにしたいと考えています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や来訪時に日頃の様子の報告が行われ、3か月に一度「おたより」を発行し請求書や写真と共に郵送しています。預かり金については出納帳を作成し、家族に確認頂き、押印やサインを得ています。	○	「たより」については職員の意見も反映し、将来的には毎月の送付を検討されています。行事予定や報告、入居者の様子などが毎月報告される事が期待されます。また金銭管理の確認はされているが領収書原本の返却も望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	たびたび来られる家族からの意見は口頭で、家族会でも意見苦情を聞き、運営に反映させています。また苦情受付箱を設置し意見が言いやすい配慮がなされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動や退職者が出た時には、お別れ会を企画して利用者に挨拶をしています。職員はすべての利用者の情報の共有のためにユニット間を日頃から行き来し、入居者情報の把握に努めています。管理者は年に一度職員と面談しており、日常的にも事務所での声掛けや様子の把握に努め、食事会などでも交流も深めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修への参加や外部研修にも参加し、レジュメの配付やフロアミーティングや職員会議などで研修の報告を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府、大阪市のグループホーム協議会に加入し、研修や交流会に参加しています。そこでのネットワークを通じて職員相互の研修も行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学時には一緒にお茶を飲んで頂いたり、馴染みの関係作りに繋がるよう配慮しています。また管理者は事前に訪問し関わりを深め、安心してもらえるようにも努めています。入居後は職員がマンツーマンで関わり、家族に協力を得ながら、早く馴染んでもらえるように環境づくりに心掛けています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	週に一度の調理実習日の際には、ちらし寿司や煮物等の味付けを教えて頂いたり、利用者にゆかたを縫って頂いたり、昔の事などを教わりながら一緒に過ごしています。また利用者同士声を掛け合い、支え合いながら過ごされています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に担当職員が決められており、日々の会話で思いや希望を把握するようにしています。意思表示の少ない利用者は会話の中で拾ったことなどをノートに記入し申し送り時やカンファレンスの際に話し合い、検討しています。今後はセンター方式を活用してさらに利用者の思いの把握が充実するように考えられています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	大阪府グループホーム協議会版の介護計画を使用し、暮らしの状況、身体のアセスメントを行い、日々の会話より利用者の思い、来訪時に家族の意向を聞きケアプランに反映しています。一人ひとりの担当職員が決められており、密な情報収集を行っています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスを実施し、毎月詳細なモニタリングを行っています。介護計画の作り直しは基本的には6か月に一度行われていますが、状態の変化がある場合はその都度行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の夕食、買い物や美容院への送迎など要望に応じています。また、将棋等の趣味の継続、教室へ通う事の検討など柔軟に支援されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、かかりつけ医を聞き意向を尊重しています。母体の名取病院より、ほぼ毎日医師の往診があり、歯科往診も支援されています。ホームの副施設長が看護師で、病院からも看護師の訪問があり、日々の健康管理や医療機関との連携においても安心した体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との連携もあり、希望に応じて最後までホーム看取ることが出来ます。入居時に家族から大まかにお話をうかがっていたが、新しく看取りの同意書を作り提示していくようにしています。現在ターミナルケアを実施しており、家族の協力を得ながら職員は医師との連携を図り、方針の共有を行いながらケアを行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛け等について管理者と職員は話し合い、一人ひとりに合った対応を心掛けています。入浴時は同性介助を基本としています。個人情報等の書類は事務所のキャビネットに収納され外からは見えないよう管理しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、朝食は起きる時間に合わせとって頂く等、出来るだけ利用者の思いを尊重して日々を過ごして頂いています。		

グループホームさくらんぼ中島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、隣接する「なとりデリカ便」での配食サービスとなっておりますが、週に1度調理実習日と定め、利用者が職員と共に食事やおやつを作っています。味見や片づけなど出来ることで利用者に役割を発揮して頂き、職員も一緒に食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の希望にそって入浴の支援がなされています。入浴を拒否される方には声掛けやタイミングを工夫しています。夕方の入浴の希望があれば対応されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、ごみ出しや洗濯物たたみなど家事分野や金魚のえさやり等で利用者が役割を持っています。野球の好きな方はTV観戦をしたり、将棋を楽しんだり、また、手芸や陶芸の講師がボランティアで来訪され、季節の作品を作ったり、趣味においても継続出来るように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所のコンビニへの買い物に行ったり、玄関横のベンチでくつろぐなど、天気のいい日には外に出かける機会を作っています。ミニ遠足にも出掛けられています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアの入り口は施錠されていません。職員は鍵を掛けないケアの大切さを理解していますが、安全面に配慮し、1階の玄関は家族に了解を得て鍵が掛けられています。利用者が外に出たい場合は、一緒に出掛けられています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回自主訓練を行っています。夜間を想定した訓練もされています。運営推進会議にて、町会長に働き掛けを行っています。		

グループホームさくらんぼ中島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録がされており、水分については1日の合計が把握されています。食事については栄養士が立てた献立が提供されています。胃漏の方への対応、ムース食やミキサー食等、一人ひとりの状態に合わせた支援がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアとも工夫がなされ、入口のカーテンや表札は職員が手作りされていたり、利用者が作成した作品が飾られており、温かい空間となっています。リビングには椅子の配置を工夫したり、畳コーナーを設けたり、一人ひとりがゆったり過ごせるよう配慮もなされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く洗面所が設置されています。入居者は馴染みの椅子やタンス等を持って来られ、家族の写真を飾ったり、大切な仏壇を置いたり、一人ひとりの状態や好みに合わせて、畳やカーペットを敷いたり、クッションフロアにする等居心地良い空間づくりがなされています。		